

多古高校に対するご意見

番号	日付	生徒にとって望ましい学びの環境とは。	生徒にとって活力のある教育活動を維持するためにはどうすればよいか。	1で回答した高等学校に関して記述してください。（自由回答）	備考
1	2024/7/11	・自宅からさほど遠くない時間で登校できる交通手段がある。できるなら公共交通機関の利用。 ・今の生徒にとってかなり大きな問題になっている綺麗なトイレへの改修。トイレが古いことによって進学先を変更している生徒が毎年いるのが現状。	・特色ある部活動の展開の維持。教育課程外の部活動だが、高校での部活動を目的に進路を選択する生徒が多い。多古高校さんの場合は野球部でかなりの生徒数を確保しているので指導力のある顧問の存在は大きいと予想される。	・地元で愛されてきた高校だけに存続に向けてあらゆるアイデアを町行政とともに考え、実行してほしい。	Forms
2	2024/7/12	・やはり、群部の学校は通学環境が大きく影響すると思います。また、校舎内の施設環境(トイレや教室など)特に、女生徒には大きな問題かと思っています。以前、卒業生が私立を選んだ理由の一つとして、挙げていました。	・自主性を重視した学校行事や資格やコンテストなどへの積極的な参加が生徒のモチベーションを上げるのではないかと思います。	・伝統的な名称だと思いますが、イメージを一新する為、名称を変えたり、成田空港関係企業と連携を行っていると思いますが就職優先高校として提携企業が増えたりすると違ってくるのではないかと思います。	Forms
3	2024/7/12	・誇りをもって高校生活が送れる学校(ネガティブな面でここしか行くところがないという意識から、ここだから自分は生きられるというポジティブな気持ちへの変容ができる環境) ・在籍生とのニーズと学校運営側との願いがすり寄せられる関係がある環境 ・生徒の実態に合わせて授業がわかること、達成感もてる学校、社会に出て生きられる「経験」をいろいろ場面でもてる環境 ・部活動での特色を生かした取組 ・施設の老朽化に対応したハード面に対応しようとする環境 (ICT化、体育館等の冷暖房、トイレの整備等) ・交通の便	・在籍生徒が一つでも自慢したくなる特色を打ち出した教育活動の展開 ・地域企業等と連携し、インターンシップなど活用した就職しやすい環境整備 ・在籍生徒が学区中学校だけに限らず幅広く広報活動を行ったり連携したりして、学校の「見える化」を推し進める。	・授業見学等に行ったことがないため実情がきちんと把握できていない。 ・進学した生徒がどのように過ごしていたり、活躍しているか情報が伝わりづらい。 ・野球等で活躍している生徒がいることは聞いているが、その実態を一般人としてつかめていない。 ・地域柄、園芸等の科がある高校が下総高校もあるので、交通の利便性を考えると電車が使える学校を選択しがち。 ・生物部などで昆虫食等特色ある取組をしていることは分かっているが、自ら調べようという意識が低い。	Forms
4	2024/7/16	・生徒同士が切磋琢磨しながら、自己の成長のために学び合える環境であると思います。	・各科における特色は何か、生徒に何を学ばせ、どのような力を付けさせたいのかを明確にし、生徒の需要、保護者の需要がどこにあるのかを把握することが大切だと思います。	・地域に根ざしている高等学校であるので、活気あふれる学校にしていきたいと思います。	Forms
5	2024/7/16	・各高等学校が、それぞれの特色を明確にし、教育課程の編成にも特色が表れている。 ・卒業後の生徒の進路実現に向け、専門性を高めた学びがある。 ・生徒一人一人の可能性を引き出し、誰もが活躍することができる。 ・公共交通機関が利用でき、登下校に負担が少ない。	・生徒の進路希望(進学・就職)が達成できるような教育課程を編成する。 ・地域や事業所等と連携したり、協働したりする教育活動を展開する。 ・大学や関係機関と連携し、専門的な学びの機会を設ける。	・コミュニティ・スクール制度を導入し、地域とのつながりが深い。 ・多古町のイベントなどに積極的に参加するなど、生徒や教職員が地域の中で活躍している。 ・求人が多く、就職指導を積極的にを行っている。 ・志願者が定員に達していない現状はあるが、地域で多古高校を守っていくという意識が高い。	Forms
6	2024/7/16	・結果として、生徒数の減少に伴い実習助手を含めた教職員等の人数で手厚い支援が可能となっていて、生徒にとって安全で安心して学べる場になっていることが、生徒にとって望ましい学びの場となっているように思います。	・既に取り組んでいることかと思いますが、東金にある農業大学校との連携や、農業に従事している地元の方々や儲かる農業を提唱している方々等との連携により、多様な教育資源を活用することで専門性を高め、充実した活力ある教育活動を展開することは可能ではないかと考えます。	・現在の志願状況を考えると維持が困難であることは理解できますが、園芸科は、以前は生産流通科であったことを踏まえて考えると、現在、農業は深刻な後継者不足に陥り、流通業界も深刻な人手不足である状況から必要な育成の場であると考えます。産官学連携の取組は難しいでしょうか。	Forms

多古高校に対するご意見

番号	日付	生徒にとって望ましい学びの環境とは。	生徒にとって活力のある教育活動を維持するためにはどうすればよいか。	1で回答した高等学校に関して記述してください。（自由回答）	備考
7	2024/10/24	・一番は学習環境の整備だと思う。それは教員の資質により個々の一所懸命な取り組みであったり専門的な教育指導が重要でず。	・生徒のやる気を生み出すためには、生徒たちが活躍できる場を見出して体験させて新しい発見をさせていく事です。 ・そして、教員と地域の教育力を活用してキャリア教育やインターンシップなどを積極的に実施する事です。 ・それに、地域の小・中・高の連携も重要だと思います。異なる年代間での交流を通じて自己の存在を再発見できると思います。	・限られた予算の中で、多古高校のハード面とソフト面の充実をお願いします。	第1回フォーラム
8	2024/12/2	・このアンケートへの回答をどの立場で書くか迷いましたが、地域の代表として意見をお伝えできる貴重な機会と捉え、地域住民の立場に立って考えてみることにします。 私の考える望ましい学びの環境とは、何を差し置いても子どもたちが3年間を無事に過ごし、卒業するといふ当たり前の安全であると思います。そのことが担保されて、勉強にも部活動にも熱心な先生方が居て、充実した3年間を過ごすことのできる環境があることです。重ねて言えば、いじめや暴力のないことは当然です。そして、できる限り自宅から近く、自力で通学ができ、突然の学校からの召喚にも家族が無理なく対応できる距離にあることも必要です。 多古高のようにクラス数が減少すると、生徒間の競争意識も低下することや、クラブ活動など課外活動への影響は心配されますが、このことよりも、先生方のモチベーションが減退してしまうことの方が心配です。かつて多古高校の卒業生が、受験の最難関といわれる東京大学法学部へ連続して合格した時代がありました。この生徒たちへの受験指導は、主に学級担任が指導したと聞きます。学園ドラマのようなことが起こるのも、偏に先生方の高い能力と情熱に勝るものはないと思う実例です。 しかしながら、現状の規模と生徒の実力を考え合わせますと、東京大学合格の再来は無理かもしれませんが、小規模校ならではのきめ細やかな対応により、生徒の希望は十分に叶えられると思います。	・一般論はやめて、多古高校学校運営協議会の取り組みを書きたいと思います。多古高校学校運営協議会では、多古高校の活力ある教育活動を維持するためには、何よりも生徒募集の改善が必要と考えています。このため、学校運営協議会では、多古高校へ様々な提案をしてきました。その一部を紹介したいと思います。 そのⅠ 海外修学旅行の実施を提案する。 千葉県と交流のある台湾国への修学旅行。近隣の高校でも実施実績があること、外国への渡航という貴重な体験、行き先としても経費の面でも実現可能として提案しました。 そのⅡ 就職希望者へのインターンシップの実施を提案する。 多古高校では、2010年まで第2学年生徒全員に対して、夏季休業中を利用してインターンシップを実施していましたが、教員の負担が大きいなどの理由で2011年からは希望者のみに変更し、実質中断してしまいました。そこで、運営協議会として、就職希望者へは、基本的に全員参加のインターンシップの実施を提案しました。 そのⅢ 資格取得への補助を提案する。 多古町からの補助金を利用して、英検を手始めに受験料を補助する案を提案しています。これは、本年も実施しには至っていませんが、学習意欲の向上と就職や進学のインセンティブに貢献すると思います。この提案は、現在も実施検討が進行中です。 そのⅣ 通学のための交通費の補助を検討する。 多古高校への進学の障害として、交通の不便さを上げられることが多くあります。そこで、多古町からの補助金を利用して、交通費の補助をする 것을検討しました。しかしながら、学校側への十分な提案ができるには至っていません。 そのⅤ 町内行事への学校参加を提案する。 町内の中学校にない、多古高校の学校行事として、町のあじさい祭り(6月開催)へ参加を提案しました。インターハイの地区予選と重なることや中学校が全校参加を見合わせるなど、状況の変化があり、参加人数は多いもの、一部生徒と職員の参加に止まっています。 これらは、学校運営協議会から提案したものと検討した事の一部ではありますが、この他に、多古町からの提案を受け、生徒が自ら企画運営した多古町の行事もあります。生徒たちにとり、大きな成功体験となりました。この経験は、運営協議会委員も多古高校の先生方と共に、多古町民が本校生徒を育ててくれたる ことを実感した出来事となりました。学校運営協議会制度は、校長先生をはじめとする先生方の理解と協力、そして、これを支援してくれる地域社会との連携が上手く行って、初めて機能するものと考えています。	・本校は、開校依頼117年の歴史を重ねてきました。こうして、統廃合の危機に直面していますと、食料も十分ではなかったであろう時代に、地域の未来に熱い期待を寄せ、農学校を開校した先人たちの思いを考えざるを得ません。統廃合は、時代の流れの中のこと、自分たちの責任を否定し、開き直るようではいけないと思います。私たちは、今一度、先人の思いに立ち返り、本校の地域社会における役割と学校運営協議会の使命を真摯に考え、生徒の成長のため、学校存続のために努力して行きたいと思ひます。	Forms
9	2025/1/17	・郡部における県立高校としての相応の規模を有しており、地域に必要とされている学校だと思います	・情報発信や地域との連携など、高校からの不断の働きかけ(企業努力)で、中学生や保護者、中学校の先生、地域の方々に理解され、支持されていることに尽きると思ひます。	・郡部にあつては、高校の減少により学校の配置が疎となり、生徒の通学区域が広がっている。多古高校は、明治に創立し、園芸科など多様な学びがあり、県内で初めてのコミュニティスクールを導入して、地域の方を生かすなど、よく努力している。後押しするためにも、早期に地域連携協働校に指定すべきと思ひます。	Forms